

やっぱり、印南議員～「印南 宏」後援会会長～

日頃は、我孫子市議会議員「印南 宏」の活動にご理解を賜っていただきますこと、心から御礼を申し上げます。

東日本大震災では、我孫子市でも甚大な被害を受け、多くの市民の皆様が被災されました。心からお見舞い申し上げます。

印南議員は、初当選以来、“「住んで良かった」そして「住んでみたい」と言われる街づくり”を掲げ、“現場主義”の視点で市民の皆さんと市政に向き合ってきました。政策としては①『安心・安全な街づくり』、②『地方分権社会に対応した街づくり』、③『我孫子らしい子供を育む街づくり』、④『フットワークの良い街づくり』、⑤『我孫子の財産を活用した街づくり』という5つの街づくりの実現を掲げています。しかし、今日ほど、この5つの政策が重みを持つに至った時はありません。震災による被害や放射線量の問題は、我孫子市民の安心・安全を脅かしています。分権社会の基本課題である行財政改革は道半ばです。また我孫子では東西の人口バランスに起因する教育問題が浮上しつつありますし、成田線をはじめとする交通政策も一部暗礁に乗り上げています。

印南議員は、これら5つの街づくりに向けて、震災対策や放射線対策はもちろんのこと、成田線の利便化向上に向けた新戦術の提起や新木駅駅舎改善の早期実現化への働き掛けを進めてきました。中でも、議会改革は初当選以来のテーマであり、議員定数の削減、議会での一問一答方式の導入、議会中継などを実現するための推進力になりました。特に、議員定数の削減では、時に孤独にも堪えつつ実現にこぎつけました。今年11月に予定されている市議会議員選挙では、前回比4名減の24名という定数で争われることとなりますが、印南議員の初当選時から比べれば実に8名減となっており、この間の定数削減に向けた印南議員の努力と苦悩は想像すらも難しいですし、印南議員の情熱には敬意を表するのみです。高齢者も子供もみんな一緒に、安心・安全で夢のある豊かな我孫子の未来を築くため、**やっぱり印南議員**。私は、今後も期待していきたくて考えています。

(我孫子市議会議員「印南 宏」後援会会長：栗原宣夫)

印南 宏のホームページ等をご覧ください！

いんなん ひろし
印南 宏
後援会事務局 7184-2860
自宅 7189-1598
住所 我孫子市布佐平和台 7-1-18
ホームページ <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~innami-hiroshi/>
ブログ <http://hiroshi4649.at.webry.info/>
E-MAIL innami@mqd.biglobe.ne.jp



ほっと Communication

印南 宏後援会 会報 2011.9.27 No.52

野田内閣の誕生と地方政治の現場からの決意

東日本大震災により国難とも言える大惨事に見舞われました。我孫子市でも大規模な液状化現象が発生し、多くの方々が被災されました。被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

今回の大震災では、「安心安全な日常」の尊さを改めて認識するとともに、「助け合い」や「ボランティア精神」という日本人の強さと優しさに深く感動しました。と同時に、政治に身をおく一人として、「政治力の欠如と虚しさ」を強く感じることもになりました。各被災地での復旧・復興に向けた懸命な努力が続くなか、国政を担う政治家には危機感と誠意が感じられず、政局を絡めた派閥や政党間の争いに明け暮れる状況はとても残念でなりません。こうした中、9月に野田佳彦内閣が発足しました。私は、かつて千葉県議会議員であった野田さんとともに若手政治家5人の勉強会を開催していました。野田さんについてはお酒の強さに加えて、常に物事を熟慮する姿が記憶に残っています。その野田首相を筆頭に、今度こそ、この国難に対して国政を担う政治家が最善を尽くして欲しいと願っています。

政治に無関心でも生きていくことはできますが、政治に無関係では生きていくことはできません。また、日本の再生は国政によってのみ成し得るのではなく、地域の自立や連帯で実現していくものと考えます。被災した自治体の議員の一人として、これからも諦めることなく、安心安全なまちづくりを目指して「地方政治の場」から力強く行動していきたくて決意を新たにしているところです。引き続きのご指導を切にお願い申し上げます。

議会改選直前の9月議会の論点とポイント

議会改選前となる9月定例市議会は、8月29日～9月22日の25日間をかけて開催されました。今回は、基本構想の一部改正案、東日本大震災の復旧費を含む補正予算案、商工業振興基本条例の制定、市税条例の一部改正、布佐ポンプ場築造工事の請負契約締結、障害者福祉サービス事業所への市有財産無償譲渡など全27議案が審議され、可決されました。また、放射能汚染問題についての陳情（可決）、高野山宅地造成工事中止のお願い等の陳情（継続審査）となりました。

なお、「放射線から市民の不安解消のための安全基準と対処方法の早期制定を求める意見書」、「放射性物質から市民の安全と安心を守る決議」の発議案を議員全員で可決し、内閣総理大臣や関係機関に対して意見書を提出しました。

宏はこう考える～9月議会での印南 宏の提言（抜粋）～

■印南の属する会派「あびこ21」の印南宏の提言概要■

印南の属する「あびこ21」の代表質問では、『子ども達を放射能から守る!』というスタンスから、(1) 子どもたちにかかわる施設の除染、(2) 放射能の諸課題に対する我孫子市の取り組み、(3) 関係機関への要請(手賀沼流域下水道終末処理場他)を提言しました。

印南の個人質問では、(1) 交通行政として①成田線利便化への道(新たな戦術の必要性)、②新木駅舎の改造事業、③市内踏切の安全対策を、(2) 教育行政として、根戸小の大規模校対策・布佐南小の小規模特任校制度の導入などを提言しました。

■成田線の利便化～急がば回れ/成田線利便化に向けた新たな戦術提起～■

我孫子市のアクセス問題である「成田線の利便化問題」は暗礁に乗り上げています。成田線活性化推進協議会でJR東日本に提案していたこれまでの増発案は、増発に関わるJR諸費用を沿線自治体で負担し、その費用を沿線開発による定住人口の増加に伴う税収増で将来的に回収するという案です。

しかし、黒字民間企業であるJR東日本が沿線自治体の負担を得ることへの社会的批判や、将来的なダイヤ編成への縛りを受けることの企業リスクの観点から、JR東日本側への増発増便に向けた要求戦術としては、JR東日本側としても受け入れにくいことが判明してきました。加えて、増発増便で定住人口が増加するという論理も推測の域を脱せず、沿線自治体の厳しい財政状況をかえって悪化させる可能性も否定できません。

増便増発の要望要請は継続するにしても、遠回りに見えますが、沿線自治体が一丸となって成田線沿線の魅力を高め、若い世代を含めた定住人口を増加させていくことが利便化への近道・王道なのではないかと私は思いなしております。その観点から、私は、沿線地域の「住宅リフォーム助成制度の拡充」や「空き店舗活用による事業支援策」というソフト支援策と、「大学等の教育機関誘致」「新木地区の南北交流道路の早期整備」「踏切の安全対策」などのハード面の施策を提起しています。

事実として成田線の平均乗車人員は1日平均で1万人以上減少(平成5年度比)しています。いずれにせよ、沿線自治体が協力して攻めの諸施策を取り組んでいくことが、急務となっています。

■小中学校の適正な配置に向けて～執行部に反省も促す～■

我孫子駅北側地区児童・生徒数の急増と、布佐地域を含む市東部地区の児童・生徒数の減少傾向が顕著となっています。現在、教育委員会により、我孫子市小中学校適正配置検討委員会を設置され、今年7月の第4回目の適正配置検討委員会で学区審議会諮問案のたたき台が出来上がりました。

私は、教育行政の立場から、根戸小学校の大規模校対策(福祉施設に転用した財産の返還や特別教室のリフォームと、学童保育施設の新設置)の提起や、布佐南小学校の小規模特任校制度の導入の提起をしました。

ただ、この中で強く感じたのは、教育のあり方を踏まえた街づくりを念頭に置くべきだということです。特に我孫子地域では、教育委員会と市の開発関連部署との連携、そして開発業者との折衝など、先を見据えた街づくりの必要性について市の執行部に反省すべき点があるのではないかと分析し、執行部に対して反省を促し、今後の課題とすべきことを訴えました。

『住んでよかった』そして『住んでみたい』と言われる街に

「あびこ」と「宏」のトピックス

■前進～我孫子市独自の放射線低減策の当面の基準が発表される!!～■

9月12日、我孫子市は放射線の低減策として当面の基準を市議会に提示しました。既に、8月22日付で「放射能対策に関する我孫子市の基本的な考え方」を策定し、その中で小学校、中学校、保育園、幼稚園、公園などの年間積算放射線量1ミリシーベルト以下をめざすとし、相対的に放射線量の高い施設においては線量低減策に引き続き取り組むこととしていましたが、具体的な「当面の放射線低減策を実施する目安」として“8月31日現在の各施設の測定地点における放射線量の平均(地表から50センチの高さで測定)”としました。

◆小・中学校・保育園・幼稚園 ⇒0.26マイクロシーベルト/時

◆公園 ⇒0.34マイクロシーベルト/時

なお、この基準は当面の放射線低減策を実施するための目安であり、目標値ではなく、最終的には年間1ミリシーベルト以下を目標とすることになります。これらの取り組みは、福島第一原発の事故後、私どもが求めてきた対策に対して前進が図られたものと考えています

■県内初～私立幼稚園児「預かり保育」半額助成制度!～■

市内の私立幼稚園10園に通う園児の保護者を対象に、幼稚園で時間外の「預かり保育」を利用した場合、保育料を半額助成する制度が9月からスタートしました。市では保育園の「待機児童ゼロ」を掲げてきましたが、8月1日現在で市内18公私立保育園の定員が10%を超え、保護者の就労等で幼稚園から保育園に転園する傾向が今後強まれば、保育園の待機児童ゼロは維持できなくなる恐れが出てきました。そこで本制度を実施!自治体が保護者に直接保育料を助成するのは千葉県内初の制度となります。私自身も待機児童ゼロを目標に掲げています。継続して知恵を絞っていきたいと考えます。

■県内初～委員会のインターネット中継と録画公開!～■

議会改革の一環として、これまでの本会議でのインターネット中継に加えて、9月議会から委員会についてもインターネット中継が開始されました。千葉県内の市議会でも委員会まで中継しているのは千葉市と成田市ですが、録画公開まで実施しているのは県内初めてとなります。議会改革は、私の議員生活の中での長年のテーマです。これからも開かれた市議会を目指して積極的に提起をしていきます。



◆#####♥

宏と語る小さな小さなティーパーティーのご案内

9月議会報告と「これで良いのか、我孫子市は」の視点で、意見交換をおこなう小さな小さなティーパーティーです。

どうぞ、みなさま奮ってのご参加をお待ちしております。

◆日時：平成23年10月22日(土) 午後6時～7時30分位

◆場所：布佐南近隣センター(会議室)

◆その他：参加費無料・事前予約等不要です。

(どうぞお気軽にご参加ください!!)



♥#####◆